

科目名	社会科教育法		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	河原 和之		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	社会科授業のための学習指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	社会科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における社会科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、社会科の意義、学習指導要領における社会科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1、学習指導要領における社会科の目標、内容ならびに社会科の指導や授業に関する基本的事項と理論を理解する。 2、社会科の学習指導理論を理解するとともに、実際の社会科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3、社会科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	さまざまな報告やプレゼン、模擬授業そしてレポートに対する教授する側からと、学生相互の対話によるコメントをおこなう。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	中学校社会科学習指導要領解説 ISBN：978-4-491-03471-3 C3037							
参考書	特になし							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	20	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	学習指導案		30
この科目の履修にあたって	教員になるということの大変さを肌で実感し理解してもらえれば万全です。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ、次回講義で提出します。	1時間
第2回	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします。	2時間
第3回	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です。	3時間
第4回	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です。	2時間
第5回	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います。	3時間
第6回	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します。	2時間

第7回	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分用の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。	3時間
第8回	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します。	2時間
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます。	2時間
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます。	2時間
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます。	2時間
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます。	2時間
第13回	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2週間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第14回	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2週間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第15回	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2週間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第16回	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2週間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第17回	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第18回	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第19回	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第20回	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第21回	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第22回	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	1時間
第23回	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	1時間
第24回	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第25回	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第26回	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第27回	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第28回	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2週間程度)。	3時間
第29回	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます。	2時間
第30回	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします。	2時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ、次回講義で提出します。	1時間
第2回	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします。	2時間
第3回	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です。	3時間
第4回	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です。	2時間
第5回	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います。	3時間
第6回	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します。	2時間
第7回	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分用の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。	3時間
第8回	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します。	2時間
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます。	2時間
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます。	2時間

第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます。	2時間
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます。	2時間
第13回	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第14回	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第15回	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第16回	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	2時間
第17回	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第18回	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第19回	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第20回	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第21回	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第22回	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	1時間
第23回	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	1時間
第24回	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第25回	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第26回	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第27回	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第28回	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2時間程度)。	3時間
第29回	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます。	2時間
第30回	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします。	2時間

科目名	社会・地理歴史科教育法		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	武田 章		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	地理歴史科の理念と授業の指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	地理歴史科を学ぶ意義はどこにあるのか、またその方法を、学習指導案作りと模擬授業を通じて学修することを目的としている。具体的な到達目標は下記の通りである。 1) 学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 2) 地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3) 地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回授業終了時に質問意見感想等を提出してもらい、それに対して必要に応じて次回にコメントを行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	指定しません。 配付資料を用いて授業を行います。							
参考書	1. 高等学校学習指導要領解説地理歴史編 文部科学省 平成30年 東洋館出版社 ISBN-10 : 4491036411 2. 中学校学習指導要領解説社会編 文部科学省 平成29年 東洋館出版社 ISBN-10 : 4491034710 3. 模擬授業等の際に使用することがあり得るので、自分が高校時代に使用した日本史、世界史、地理の教科書を用意して下さい。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	模擬授業等の発表に関わるもの		40
この科目の履修にあたって	教職免許は教育実習を経て取得することになります。生徒にとって教育実習生は「先生」であり、年間授業時間の何%かの授業を「アマチュアの実習生」から受けることとなります。それだけに教職免許取得希望者には「教員の卵」としての心構えが求められ、重責を担うことになることを十分に自覚して下さい。 また、よりよい授業を行えるようになるためには、日頃からの教材研究が欠かせません。特に地理歴史科(に限らず社会科全般)は「森羅万象が教材」となります。「教科書の枠」にとどまることなく、あらゆる世の中の出来事に対してふだんからアンテナを張り巡らせて積極的に情報を収集し、教材探しやその探究に努めてください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	地理歴史科を学ぶ社会的、教育的意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行う。	4時間
第2回	学校教育における地理歴史科、教育課程における地理歴史科	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第3回	学習指導要領における地理歴史科の学習指導	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間

第4回	学習指導要領と地理歴史科各分野の学習指導	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	地理歴史科の学習指導理論と授業	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	地理歴史科授業の構想と計画・立案	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	地理歴史科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第8回	学習指導案と教材研究	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第9回	教材研究の方法	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第12回	授業の方法と実際と評価	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第13回	授業の実践例(地理総合)① 地理を学ぶ意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	授業の実践例(地理総合)② 地形図、地理情報の活用	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	授業の実践例(地理総合)③ 人文地理学的視点と国際理解	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第16回	授業の実践例(地理探究)④ 持続可能な社会と防災	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第17回	授業の実践例(地理探究)⑤ 「地理探究」授業小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第18回	授業の実践例(歴史探究)① 歴史を学ぶ意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第19回	授業の実践例(歴史総合)② 近代化・産業化と国民国家	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第20回	授業の実践例(歴史総合)③ 大衆社会の形成	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第21回	授業の実践例(歴史総合)④ グローバル化する国際社会	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第22回	授業の実践例(日本史探究)① 古代、中世	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第23回	授業の実践例(日本史探究)② 近世、近現代	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第24回	授業の実践例(日本史探究)③ 「日本史」授業の小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第25回	授業の実践例(世界史探究)④ 古代、中世	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第26回	授業の実践例(世界史探究)⑤ 近世、近現代	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第27回	授業の実践例(世界史探究)⑥ 「世界史」授業の小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第28回	地理歴史科における発展的な学習内容	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第29回	発展的な学習内容とその指導	事後 1年間の整理。	4時間

第30回	地理歴史科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	事後 1年間の整理。	4時間
------	-------------------------------	---------------	-----

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	地理歴史科を学ぶ社会的、教育的意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行う。	4時間
第2回	学校教育における地理歴史科、教育課程における地理歴史科	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第3回	学習指導要領における地理歴史科の学習指導	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第4回	学習指導要領と地理歴史科各分野の学習指導	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第5回	地理歴史科の学習指導理論と授業	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第6回	地理歴史科授業の構想と計画・立案	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第7回	地理歴史科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第8回	学習指導案と教材研究	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第9回	教材研究の方法	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第12回	授業の方法と実際と評価	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第13回	授業の実践例(地理総合)① 地理を学ぶ意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第14回	授業の実践例(地理総合)② 地形図、地理情報の活用	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第15回	授業の実践例(地理総合)③ 人文地理学的視点と国際理解	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第16回	授業の実践例(地理探究)④ 持続可能な社会と防災	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第17回	授業の実践例(地理探究)⑤ 「地理探究」授業小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第18回	授業の実践例(歴史探究)① 歴史を学ぶ意義	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第19回	授業の実践例(歴史総合)② 近代化・産業化と国民国家	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第20回	授業の実践例(歴史総合)③ 大衆社会の形成	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第21回	授業の実践例(歴史総合)④ グローバル化する国際社会	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第22回	授業の実践例(日本史探究)① 古代、中世	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第23回	授業の実践例(日本史探究)② 近世、近現代	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第24回	授業の実践例(日本史探究)③ 「日本史」授業の小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間

第25回	授業の実践例(世界史探究)④ 古代、中世	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第26回	授業の実践例(世界史探究)⑤ 近世、近現代	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第27回	授業の実践例(世界史探究)⑥ 「世界史」授業の小括	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第28回	地理歴史科における発展的な学習内容	事前 テキストや参考書の該当部分を読んでおいてください。 事後 授業内容の振り返りを行ってください。	4時間
第29回	発展的な学習内容とその指導	事後 1年間の整理。	4時間
第30回	地理歴史科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	事後 1年間の整理。	4時間

科目名	社会・公民科教育法		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	手取 義宏		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり							
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎林と授業づくりの学びを開始する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1.社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2.社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3.社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4.模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』(文部科学省 平成30年)							
参考書								
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	指導案等を含む模擬授業		40
この科目の履修にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていききたい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第2回	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第3回	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第4回	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第5回	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第6回	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第7回	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第8回	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間

第9回	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第10回	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第11回	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第12回	社会科・公民科の授業分析	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第13回	授業の実践例(公共)①「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第14回	授業の実践例(公共)② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第15回	授業の実践例(公共)③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第16回	授業の実践例(公共)④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第17回	授業の実践例(公共)⑤「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第18回	授業の実践例(倫理)①「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第19回	授業の実践例(倫理)② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第20回	授業の実践例(倫理)③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第21回	授業の実践例(倫理)④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第22回	授業の実践例(倫理)⑤「倫理」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第23回	授業の実践例(政治・経済)①「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第24回	授業の実践例(政治・経済)② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第25回	授業の実践例(政治・経済)③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第26回	授業の実践例(政治・経済)④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第27回	授業の実践例(政治・経済)⑤「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第28回	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第29回	発展的な学習内容とその指導 探究とPBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第30回	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	3時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第2回	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第3回	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第4回	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第5回	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第6回	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第7回	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第8回	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第9回	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間

第10回	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第11回	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第12回	社会科・公民科の授業分析	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第13回	授業の実践例(公共)① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第14回	授業の実践例(公共)② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第15回	授業の実践例(公共)③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第16回	授業の実践例(公共)④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第17回	授業の実践例(公共)⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第18回	授業の実践例(倫理)① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第19回	授業の実践例(倫理)② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第20回	授業の実践例(倫理)③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第21回	授業の実践例(倫理)④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第22回	授業の実践例(倫理)⑤ 「倫理」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第23回	授業の実践例(政治・経済)① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第24回	授業の実践例(政治・経済)② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第25回	授業の実践例(政治・経済)③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第26回	授業の実践例(政治・経済)④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第27回	授業の実践例(政治・経済)⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	5時間
第28回	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第29回	発展的な学習内容とその指導 探究とPBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	3時間
第30回	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	3時間

科目名	教育原理		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想的な理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。							
参考書	<p>『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795</p> <p>『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672</p> <p>『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高、富江英俊 編 晃洋陽書房(2017): とくに近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる。</p> <p>『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』江藤藤二 他 編 名古屋大学出版会(2008) ISBN-10: 4815805865 ISBN-13: 978-4815805869: とくに産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手入するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前： ウェブページの検索(検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教育原理		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想的な理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。							
参考書	<p>『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795</p> <p>『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672</p> <p>『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高、富江英俊 編 晃洋陽書房(2017): とくに近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる。</p> <p>『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』江藤藤二 他 編 名古屋大学出版会(2008) ISBN-10: 4815805865 ISBN-13: 978-4815805869: とくに産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前： ウェブページの検索(検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教職論	開講年度	2021年度秋学期					
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	「教職」について知り、進路を考える							
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。							
履修の条件・注意	教職課程資格取得希望者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2)教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日の役割や資質能力について理解する。 3)教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4)多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週に補足の説明や論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年、ISBN : 978-4827815795 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年、ISBN : 978-4827815672							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	50	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	50	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうかを自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教職の意義と役割及び進路としての教職	事後:履修要項をよく読んで、本学の教員養成の目標、希望する教員免許状に必要な科目、単位数について確認する。	2.5時間
第2回	教職の職業的特性と様々な教職観と進路選択	事前:教職とほかの専門職の共通点と相違点について考える。 事後:教職観に影響を与えた社会の変化について整理する。	4.5時間
第3回	教職に求められる資質能力、職務、服務	事後:教員に求められる資質・能力としてどのようなものがあるといわれているか調べてまとめる。	4時間
第4回	教職に求められる職務上、身分上の義務	事後:ノート、資料を読みなおす。	3時間
第5回	教育を取り巻く今日的状況と教師 チーム学校と教師の学び	事前:学校、子どもが抱える問題としてどのようなものがあるか調べる。 事後:教職員間での連携の必要性について説明できるようにする。	4.5時間
第6回	教職に求められる今日的役割 学び続ける教師 教師の働き方改革	事後:文部科学省ウェブサイトの「学校における働き方改革～取組事例集～(令和2年2月)」を読んで、考察する。	4.5時間

第7回	学校現場に見る教員の職務と役割 校務分掌	事前: 教員にはどのような仕事があるか書き出す。 事後: 教員の役割としてどのようなものがあるか整理してまとめる。	4.5時間
第8回	教員の職務と役割 ① 教科指導から見る	事後: ノート、資料を読みなおす。 教科指導において教員に求められる資質・能力についてまとめる。	4.5時間
第9回	教員の職務と役割 ② 生徒指導から見る	事後: ノート、資料を読みなおす。 生徒指導において教員に求められる資質・能力についてまとめる。	4.5時間
第10回	教員の職務と役割 ③ 学級経営と特別活動	事後: ノート、資料を読みなおす。 学級経営・特別活動において教員に求められる資質・能力についてまとめる。	4.5時間
第11回	学校現場における今日的状況への対応	事前: 今年の学校現場に関するニュースを収集する。 事後: 授業をふまえて事前に収集したニュースについて考察する。	4.5時間
第12回	学校現場における教員の職務に関する振り返り	事後: 教員となるためにどのような力を身に付ける必要があるかまとめる。	4時間
第13回	学校心理臨床から見た学校教育	事前: ウェブによる検索(「学校臨床」「スクール・カウンセラー」「スクール・ソーシャルワーカー」) 事後: ノート、資料を読みなおす。	4時間
第14回	学校心理臨床から見た教師と教育相談	事後: ノート、資料を読みなおす。	3時間
第15回	教師と専門家が連携したチーム的対応	事後: チーム学校における教員の役割、専門家との協働について考えをまとめる。	4時間

科目名	教職論		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔、上川 貴子、金井 年		配当年次	1234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	「教職」について知り、進路を考える							
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。							
履修の条件・注意	教職課程資格取得希望者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2)教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日の役割や資質能力について理解する。 3)教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4)多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週に補足の説明や論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672 とくに、鈴木担当部分については、下記の部分(「教育行政学」で使用するテキストの「補章」)が、関連性が高い。適宜、プリントとして配付するが、持っている人はこの本を参照してもよい。 鈴木清稔「補章「教員」を巡る諸問題」(『教育行政学 講義 増補改訂版 —教育の制度とその運営— (第2刷)』大阪経済法科大学経法学会 2021 pp.74—109)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	70	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか、教員免許を取得するかどうか、自問しつつ、受講して欲しい。また、教育実習など外部の施設や組織との接触や関わりがあるので、日頃から「常識」ある行動や責任ある行動をとる心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。この点についても、授業で取り扱う。 3人の担当者の評価の、成績評価に占める割合は、それぞれ、鈴木40%、金井40%、上川20%である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教職の意義と役割及び進路としての教職(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」を参照できる人は、『教育行政学 講義 増補改訂版(第2刷)』のpp.74—76、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	教職の職業的特性と様々な教職観と進路選択(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.76—81、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	教職に求められる資質能力、職務、服務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	教職に求められる職務上、身分上の義務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	教育を取り巻く今日的状況と教師 チーム学校と教師の学び(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—91、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	教職に求められる今日の役割 学び続ける教師 教師の働き方改革(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.92—99、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第7回	学校現場に見る教員の職務と役割 校務分掌(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	教員の職務と役割 ① 教科指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	教員の職務と役割 ② 生徒指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	教員の職務と役割 ③ 学級経営と特別活動(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	学校現場における今日的状況への対応(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	学校現場における教員の職務に関する振り返り(金井)	事前: 「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—109、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	学校心理臨床から見た学校教育(上川)	事前: ウェブによる検索(検索ワード「学校臨床」「スクール・カウンセラー」「スクール・ソーシャルワーカー」)、事後: 補足プリントの学習	4時間
第14回	学校心理臨床から見た教師と教育相談(上川)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教師と専門家が連携したチーム的対応(上川)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教職論		開講年度	2021年度春学期				
担当者	鈴木 清稔、上川 貴子、金井 年		配当年次	1234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	「教職」について知り、進路を考える							
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。							
履修の条件・注意	教職課程資格取得希望者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2)教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日の役割や資質能力について理解する。 3)教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4)多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週に補足の説明や論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672 とくに、鈴木担当部分については、下記の部分(「教育行政学」で使用するテキストの「補章」)が、関連性が高い。適宜、プリントとして配付するが、持っている人はこの本を参照してもよい。 鈴木清稔「補章「教員」を巡る諸問題」(『教育行政学 講義 増補改訂版 —教育の制度とその運営— (第2刷)』大阪経済法科大学経済学会 2021 pp.74—109)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	70	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか、教員免許を取得するかどうか、自問しつつ、受講して欲しい。また、教育実習など外部の施設や組織との接触や関わりがあるので、日頃から「常識」ある行動や責任ある行動をとる心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。この点についても、授業で取り扱う。 3人の担当者の評価の、成績評価に占める割合は、それぞれ、鈴木40%、金井40%、上川20%である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教職の意義と役割及び進路としての教職(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」を参照できる人は、『教育行政学 講義 増補改訂版(第2刷)』のpp.74—76、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	教職の職業的特性と様々な教職観と進路選択(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.76—81、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	教職に求められる資質能力、職務、服務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	教職に求められる職務上、身分上の義務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	教育を取り巻く今日的状況と教師 チーム学校と教師の学び(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—91、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	教職に求められる今日の役割 学び続ける教師 教師の働き方改革(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.92—99、事後:ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第7回	学校現場に見る教員の職務と役割 校務分掌(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	教員の職務と役割 ① 教科指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	教員の職務と役割 ② 生徒指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	教員の職務と役割 ③ 学級経営と特別活動(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	学校現場における今日的状況への対応(金井)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	学校現場における教員の職務に関する振り返り(金井)	事前: 「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—109、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	学校心理臨床から見た学校教育(上川)	事前: ウェブによる検索(検索ワード「学校臨床」「スクール・カウンセラー」「スクール・ソーシャルワーカー」)、事後: 補足プリントの学習	4時間
第14回	学校心理臨床から見た教師と教育相談(上川)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	教師と専門家が連携したチーム的対応(上川)	事前: 配付プリントの学習、事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教育行政学		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	平阪 美穂		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	戦後日本の教育行政—教育の諸制度とその運営—							
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。まずは、地方教育行政システムの在り方を時系列的にとりながら、公教育制度とその制度運営としての教育行政の成り立ちを教育法制や教育行政システムの制度原理や在り方について理解し、さらに近年の教育改革に見られる制度改革や学校の在り方の改革の動向についても理解を深める。その際、近年注目されてきた学校安全についても理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2) 学校の地域運営学校化や地域学校協働本部の設置などに見られる、学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3) 学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全(危機管理を含む)の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	教育法規スタートアップ・ネクスト Crossmedia Edition, 高見 茂, 開沼 太郎, 宮村 裕子(編), 昭和堂, 2018年, ISBN: 9784812217245 教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—, 鈴木清稔, 大阪経済法科大学経法学会, 2018年							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	40	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	40	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業への出席を原則とします。 授業内でのディスカッションには積極的に参加してください。 授業では、講義内容をまとめながらノートを取ってください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	公教育制度原理と教育権の理念とその保障	事前: 本授業の到達目標に基づいて、自分なりの目標を設定する。 事後: 自分がこれまでどのような教育を受けてきたのかをまとめる。	4時間
第2回	公教育に関わる法制度と行政とその課題	事後: ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 公教育の意義や我が国の学校体系の特徴について説明できるようにする。	4時間
第3回	教育行政と教育制度の運営及び運営上の課題	事後: ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	3.5時間
第4回	教育行政の概念と基本原則とその課題	事後: ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	3.5時間

第5回	憲法・教育基本法制と教育行政・制度	事前：教育に関する法規としてどのようなものがあるか調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 憲法26条を暗唱し、その意味について説明できるようにする。	4.5時間
第6回	改正教育基本法と教育行政・制度	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	3.5時間
第7回	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 文部科学省のホームページを閲覧し、どのような役割を持っているのか確認する。 学校教育における文部科学省の役割についてまとめる。	4.5時間
第8回	戦後の教育行政 ① 地方教育行政の制度理念とシステム	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	3.5時間
第9回	戦後の教育行政 ② 公選制教育委員会	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	3.5時間
第10回	戦後の教育行政 ③ 任命制教育委員会	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	3.5時間
第11回	戦後の教育行政 ④ 2007年までの改革	事前：戦後の教育に影響を与えた社会情勢について調べる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4.5時間
第12回	教育基本法改正に伴う教育三法改正による改革	事前：平成以降の教育に関するニュースについて調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4.5時間
第13回	第二次安倍内閣以降の教育改革 新教育委員会制度	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 新旧の教育委員会制度の特徴についてまとめる。	4.5時間
第14回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ① 地域・学校創生と学校安全	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 関心のある自治体において、「開かれた学校づくり」のためにどのような取り組みが行われているのか調べる。	4.5時間
第15回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ② 地域・学校創生と学校安全の実際と課題	予習：学校保健安全法に目を通してくる。 復習：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 学校の危機管理に関するニュース(新聞記事等)を探し、そこで取られた対応と問題点についてまとめる。	4.5時間

科目名	教育行政学			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	鈴木 清稔			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	戦後日本の教育行政—教育の諸制度とその運営—							
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。まずは、地方教育行政システムの在り方を時系列的にとりながら、公教育制度とその制度運営としての教育行政の成り立ちを教育法制や教育行政システムの制度原理や在り方について理解し、さらに近年の教育改革に見られる制度改革や学校の在り方の改革の動向についても理解を深める。その際、近年注目されてきた学校安全についても理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2) 学校の地域運営学校化や地域学校協働本部の設置などに見られる、学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3) 学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全(危機管理を含む)の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業時のノート作成については、授業中に助言する。ノート作成に関する質問や相談にも授業時やメールにて応じる。また、再履修の者に対して、希望者には、この科目の学習上の助言や、答案作成のための助言を面談にて行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	『教育行政学 講義 増補改訂版 —教育の制度とその運営— (第2刷)』大阪経済法科大学経法学会 (2021):このテキストは毎時間、使用し、このテキストの右ページにノートを作成するスペースを設けています。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手入するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。テストは、記述式で出題することを原則としているので、なおのこと、授業での「聞き」に基づく主体的な学修と「書く力」が必要である。普段の授業において、講義内容を要約しつつメモを取り、ノート作成に努めておかなければ、テストで十分な解答はできない。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	公教育制度原理と教育権の理念とその保障	事後: テキストpp. 4-5および補足プリントの学習	4時間
第2回	公教育に関わる法制度と行政とその課題	事前: テキストpp. 6-7、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第3回	教育行政と教育制度の運営及び運営上の課題	事前: テキストpp. 8-9、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第4回	教育行政の概念と基本原則とその課題	事前: テキストpp. 10-13、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間

第5回	憲法・教育基本法制と教育行政・制度	事前：テキストpp. 14-19、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第6回	改正教育基本法と教育行政・制度	事前：テキストpp. 20-21、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第7回	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事前：テキストpp. 22-23、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第8回	戦後の教育行政 ① 地方教育行政の制度理念とシステム	事前：テキストpp. 22-25、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第9回	戦後の教育行政 ② 公選制教育委員会	事前：テキストpp. 26-31、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第10回	戦後の教育行政 ③ 任命制教育委員会	事前：テキストpp. 32-44、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第11回	戦後の教育行政 ④ 2007年までの改革	事前：テキストpp. 45-49、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第12回	教育基本法改正に伴う教育三法改正による改革	事前：テキストpp. 50-53、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第13回	第二次安倍内閣以降の教育改革 新教育委員会制度	事前：テキストpp. 54-67、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第14回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ① 地域・学校創生と学校安全	事前：テキストpp. 68-73、88-93 事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第15回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ② 地域・学校創生と学校安全の実際と課題	事前：テキストpp. 94-99、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間

科目名	教育行政学		開講年度	2021年度春学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	戦後日本の教育行政—教育の諸制度とその運営—							
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。まずは、地方教育行政システムの在り方を時系列的にとりながら、公教育制度とその制度運営としての教育行政の成り立ちを教育法制や教育行政システムの制度原理や在り方について理解し、さらに近年の教育改革に見られる制度改革や学校の在り方の改革の動向についても理解を深める。その際、近年注目されてきた学校安全についても理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2) 学校の地域運営学校化や地域学校協働本部の設置などに見られる、学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3) 学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全(危機管理を含む)の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業時のノート作成については、授業中に助言する。ノート作成に関する質問や相談にも授業時やメールにて応じる。また、再履修の者に対して、希望者には、この科目の学習上の助言や、答案作成のための助言を面談にて行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	『教育行政学 講義 増補改訂版 —教育の制度とその運営— (第2刷)』大阪経済法科大学経法学会 (2021):このテキストは毎時間、使用し、このテキストの右ページにノートを作成するスペースを設けています。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを入手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。テストは、記述式で出題することを原則としているので、なおのこと、授業での「聞き」に基づく主体的な学修と「書く力」が必要である。普段の授業において、講義内容を要約しつつメモを取り、ノート作成に努めておかなければ、テストで十分な解答はできない。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	公教育制度原理と教育権の理念とその保障	事後: テキストpp. 4-5および補足プリントの学習	4時間
第2回	公教育に関わる法制度と行政とその課題	事前: テキストpp. 6-7、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第3回	教育行政と教育制度の運営及び運営上の課題	事前: テキストpp. 8-9、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第4回	教育行政の概念と基本原則とその課題	事前: テキストpp. 10-13、事後: ノートの整理および補足プリントの学習	4時間

第5回	憲法・教育基本法制と教育行政・制度	事前：テキストpp. 14-19、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第6回	改正教育基本法と教育行政・制度	事前：テキストpp. 20-21、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第7回	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事前：テキストpp. 22-23、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第8回	戦後の教育行政 ① 地方教育行政の制度理念とシステム	事前：テキストpp. 22-25、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第9回	戦後の教育行政 ② 公選制教育委員会	事前：テキストpp. 26-31、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第10回	戦後の教育行政 ③ 任命制教育委員会	事前：テキストpp. 32-44、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第11回	戦後の教育行政 ④ 2007年までの改革	事前：テキストpp. 45-49、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第12回	教育基本法改正に伴う教育三法改正による改革	事前：テキストpp. 50-53、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第13回	第二次安倍内閣以降の教育改革 新教育委員会制度	事前：テキストpp. 54-67、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第14回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ① 地域・学校創生と学校安全	事前：テキストpp. 68-73、88-93 事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間
第15回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ② 地域・学校創生と学校安全の実際と課題	事前：テキストpp. 94-99、事後：ノートの整理および補足プリントの学習	4時間

科目名	教育心理学		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	下山 恵子		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。 1)記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。 2)教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。 3)運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。 4)個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学の内容を学ぶ。 5)学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学の内容を学ぶ。 6)生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学の内容を学ぶ。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。 2)生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。 3)生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技/反転授業							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	講義毎に事前にLearningPortalにアップします。 必ずプリントアウトし、講義に持参してください。							
参考書	講義資料にて紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	15	小テスト・理解度テストなど(%)	35	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	授業内のプレゼンテーション		50
この科目の履修にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。 分からないことがあった時は、必ず、質問してください。 小テストの実施、パワーポイントを利用したプレゼンテーションなどがあります。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習をすること。	4時間
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間

第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実際	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ。	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習をすること。	4時間
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実践	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ。	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

科目名	教育心理学		開講年度	2021年度春学期、2021年度秋学期				
担当者	下山 恵子		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。 1)記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。 2)教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。 3)運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。 4)個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学の内容を学ぶ。 5)学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学の内容を学ぶ。 6)生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学の内容を学ぶ。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。 2)生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。 3)生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技/反転授業							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	講義毎に事前にLearningPortalにアップします。 必ずプリントアウトし、講義に持参してください。							
参考書	講義資料にて紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	15	小テスト・理解度テストなど(%)	35	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	授業内のプレゼンテーション		50
この科目の履修にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。 分からないことがあった時は、必ず、質問してください。 小テストの実施、パワーポイントを利用したプレゼンテーションなどがあります。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習をすること。	4時間
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間

第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実際	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ。	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習をすること。	4時間
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実践	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習し、小テスト対策をしてください。	4時間
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ。	LearningPortalから資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして、小テスト対策をしてください。	4時間

科目名	特別支援教育概論		開講年度	2021年度春学期				
担当者	三益 亜美		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	1単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の目的及び概要	様々な障害や、特別の教育的ニーズのある、特別な支援を要する子どもの特性や発達を理解し、一人一人の教育的ニーズを把握した指導や支援の在り方を学ぶ。体験的な学修を通して、特別支援教育に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。							
履修の条件・注意	—							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や現状の課題を踏まえ、様々な障害や、特別の教育的ニーズのある子どもへの理解をもとに、特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルス感染状況により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	試験・小テストについては、授業支援システム(Learning Portal)に解答、講評を掲載します。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『パンフレット「特別支援教育」について』(文部科学省) 小林秀之・米田宏樹・安藤隆男 編著、吉田武男 監修『はじめて学ぶ教職18特別支援教育－共生社会の実現に向けて－』(ミネルヴァ書房、2018年)ISBN 978-4-623-08152-3 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取り組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	40	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	本授業科目は、1/2学期の授業回数(計8回の講義)で構成されています。 現在、特別支援教育に関する知識は、どの教員にも求められています。 覚えるべき基礎事項を覚え、その知識を使って柔軟に子どもへの支援を考える力を養ってほしいと思います。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	授業概要を説明した後に、「障害とは何か?」と「障害児教育の歴史」について概説します。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	「特別支援教育の理念(指導計画、支援計画、連携などを含む)」について解説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	「教育課程における特別支援教育」を説明した後に、「視覚障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	「聴覚障害」と「知的障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「言語障害」それぞれに関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	「情緒障害」と「発達障害(主にASD)」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間

第7回	「情緒障害」と「発達障害(主にADHDとDCD)」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	「発達障害(主にLD)」に関する基礎知識と支援方法を概説したのちに、「母国語や貧困の問題等の特別な教育的ニーズ」を説明し、通常の学校における特別支援教育に関するまとめを行います。 通常の学校における特別支援教育:まとめ	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間

科目名	特別支援教育概論	開講年度	2021年度秋学期					
担当者	三盃 亜美	配当年次	234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html	単位数	1単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の目的及び概要	様々な障害や、特別の教育的ニーズのある、特別な支援を要する子どもの特性や発達を理解し、一人一人の教育的ニーズを把握した指導や支援の在り方を学ぶ。体験的な学修を通して、特別支援教育に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。							
履修の条件・注意	—							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や現状の課題を踏まえ、様々な障害や、特別の教育的ニーズのある子どもへの理解をもとに、特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルス感染状況により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	試験・小テストについては、授業支援システム(Learning Portal)に解答、講評を掲載します。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『パンフレット「特別支援教育」について』(文部科学省) 小林秀之・米田宏樹・安藤隆男 編著、吉田武男 監修『はじめて学ぶ教職18特別支援教育—共生社会の実現に向けて—』(ミネルヴァ書房、2018年)ISBN 978-4-623-08152-3 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	40	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	本授業科目は、1/2学期の授業回数(計8回の講義)で構成されています。 現在、特別支援教育に関する知識は、どの教員にも求められています。 覚えるべき基礎事項を覚え、その知識を使って柔軟に子どもへの支援を考える力を養ってほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	授業概要を説明した後に、「障害とは何か?」と「障害児教育の歴史」について概説します。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	「特別支援教育の理念(指導計画、支援計画、連携などを含む)」について解説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	「教育課程における特別支援教育」を説明した後に、「視覚障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	「聴覚障害」と「知的障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「言語障害」それぞれに関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	「情緒障害」と「発達障害(主にASD)」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間

第7回	「情緒障害」と「発達障害(主にADHDとDCD)」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	「発達障害(主にLD)」に関する基礎知識と支援方法を概説したのちに、「母国語や貧困の問題等の特別な教育的ニーズ」を説明し、通常の学校における特別支援教育に関するまとめを行います。 通常の学校における特別支援教育:まとめ	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4時間

科目名	教育課程論		開講年度	2021年度春学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校のカリキュラムの意義と編成の方法、マネジメント							
授業の目的及び概要	「確かな学力」と「生きる力」を備えた生徒の育成が求められる学校教育において、教育課程の持つ意義は大きく、その編成は重要な課題である。そこで、この科目では、学校教育の教育課程に関する知識の修得及びその意義、編成の方法についての理解、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを実施する意義についての理解を、学習指導要領に即して深める。具体的には、今日的な教育課程の在り方について、歴史的視点、教育改革の動向、教育実践との関わりから、アプローチする。授業の内容として、① 種々の教育課程の概念と編成原理、② 学習指導要領の構成・内容、その変遷、③ 実際の授業や学習指導の評価と教育課程のマネジメントを扱う。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。 2) 教育課程編成の基本原則と、実際の教育課程編成方法について理解する。 3) 教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントに対しては、できるだけ適宜、回答、補足説明などをします。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』古川治、矢野裕俊 編 北大路書房 2019年 ISBN-10: 4762830623 ISBN-13: 978-4762830624 このテキストは、授業で実際に参照して使用するので、購入して授業には持参すること。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東山書房(2020)ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 東山書房(2018)ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東山書房(2019)ISBN-10: 4827815801 ISBN-13: 978-4827815801 『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社(2019)ISBN-10: 449103639X ISBN-13: 978-4491036397							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	80	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボってにおいて、事後に配布プリントとノートを手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教育課程の概念と学校教育における意義と社会的役割	事前: テキスト第1章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	学校教育における教育課程の編成と目的とその役割 学習指導要領	事前: テキスト第4章およびColum 1 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	種々の教育課程の編成原理とその特質	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	教育課程と学習観・学習指導の関わりや機能	事前: テキスト第2章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	様々なカリキュラムの検討:教科別編成から領域横断的編成まで	事前: テキスト第2章およびColum2、Colum3 事後: ノートの整理と補足プリント	4時間
第6回	教育課程改革の歩み(1950年代まで)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第7回	教育改革の歩み(1950年代以降)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	教育課程と授業・学習指導の形態と方法	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	学習指導要領の変遷① 改訂と社会的背景(高度経済成長期まで)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	学習指導要領の変遷② 改訂と社会的背景(学習負担の軽減期)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	学習指導要領の変遷③ 改訂と社会的背景(「生きる力」の育成期)	事前: テキスト第13章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	科目横断的・問題解決的学習の発想「総合的な学習の時間」から学ぶ	事前: テキスト第13章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	新学習指導要領と教育課程 地域・学校の創生と教育課程	事前: テキスト第10章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びとその社会背景	事前: テキスト第14章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	学習評価とカリキュラム・マネジメント	事前: テキスト第9章、第11章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教育課程論	開講年度	2021年度秋学期					
担当者	鈴木 清稔	配当年次	234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校のカリキュラムの意義と編成の方法、マネジメント							
授業の目的及び概要	「確かな学力」と「生きる力」を備えた生徒の育成が求められる学校教育において、教育課程の持つ意義は大きく、その編成は重要な課題である。そこで、この科目では、学校教育の教育課程に関する知識の修得及びその意義、編成の方法についての理解、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを実施する意義についての理解を、学習指導要領に即して深める。具体的には、今日的な教育課程の在り方について、歴史的視点、教育改革の動向、教育実践との関わりから、アプローチする。授業の内容として、① 種々の教育課程の概念と編成原理、② 学習指導要領の構成・内容、その変遷、③ 実際の授業や学習指導の評価と教育課程のマネジメントを扱う。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。 2) 教育課程編成の基本原則と、実際の教育課程編成方法について理解する。 3) 教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントに対しては、できるだけ適宜、回答、補足説明などをします。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』古川治、矢野裕俊 編 北大路書房 2019年 ISBN-10: 4762830623 ISBN-13: 978-4762830624 このテキストは、授業で実際に参照して使用するので、購入して授業には持参すること。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東山書房(2020)ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 東山書房(2018)ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東山書房(2019)ISBN-10: 4827815801 ISBN-13: 978-4827815801 『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社(2019)ISBN-10: 449103639X ISBN-13: 978-4491036397							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	80	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボってにおいて、事後に配布プリントとノートを手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教育課程の概念と学校教育における意義と社会的役割	事前: テキスト第1章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	学校教育における教育課程の編成と目的とその役割 学習指導要領	事前: テキスト第4章およびColum 1 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	種々の教育課程の編成原理とその特質	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	教育課程と学習観・学習指導の関わりや機能	事前: テキスト第2章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	様々なカリキュラムの検討:教科別編成から領域横断的編成まで	事前: テキスト第2章およびColum2、Colum3 事後: ノートの整理と補足プリント	4時間
第6回	教育課程改革の歩み(1950年代まで)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第7回	教育改革の歩み(1950年代以降)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	教育課程と授業・学習指導の形態と方法	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	学習指導要領の変遷① 改訂と社会的背景(高度経済成長期まで)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	学習指導要領の変遷② 改訂と社会的背景(学習負担の軽減期)	事前: 補足プリントの予習 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	学習指導要領の変遷③ 改訂と社会的背景(「生きる力」の育成期)	事前: テキスト第13章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	科目横断的・問題解決的学習の発想「総合的な学習の時間」から学ぶ	事前: テキスト第13章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	新学習指導要領と教育課程 地域・学校の創生と教育課程	事前: テキスト第10章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びとその社会背景	事前: テキスト第14章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	学習評価とカリキュラム・マネジメント	事前: テキスト第9章、第11章 事後: ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	道徳理論と指導法		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	松岡 靖		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	道徳教育の指導案を組み立てよう							
授業の目的及び概要	この科目の目標は、第一に教育基本法や学校教育法に示された方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえた上で、中学校における道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解して、その要となる道徳科の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。そのために、具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身につける。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	1. 毎回の授業の最後に学生がコメントを提出し、次回の最初に教員がコメントを返す。 2. 模擬授業の学習指導案を学生が作る過程で、教員が改善のためのアドバイスをする。 3. 学生が実施した模擬授業のレポートを作成して、教員がコメントを付けて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省 平成29年) 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?』(日本図書センター 2011年) 広岡義之編著『新しい道徳教育—理論と実践—』(ミネルヴァ書房 2009年) 川本隆史『マイクロ・エンクサス—小銭で払う倫理学—』(昭和堂 1993年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	15	小テスト・理解度テストなど(%)	15	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	学生全員が中学校道徳科の模擬授業を実施する。		40
この科目の履修にあたって	1. 参考書と学習指導要領を読めば単位の修得は難しくありません。 2. 履修者が模擬授業の実施に責任をもたないと迷惑になります。 3. 中学校教員免許状の必修科目なので確実に履修してください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	オリエンテーション 道徳の本質	中学校学習指導要領の総則を通読すること。	1時間
第2回	道徳教育の歴史と現代社会における課題	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第1章を通読すること。	1時間
第3回	指導要領にみる道徳科 ① 学校教育の役割と指導計画	中学校学習指導要領の第2章を通読すること。	1時間
第4回	指導要領にみる道徳科 ② 他教科との関係	中学校学習指導要領解説道徳編を通読すること。	1時間
第5回	道徳科の教材研究 ① 自己との関わり(心の成長と道徳性の発達)	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第3章を通読すること。	1時間
第6回	道徳科の教材研究 ② 他者との関わりと課題	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第4章を通読すること。	1時間
第7回	道徳科の教材研究 ③ 集団・社会との関わりを踏まえた多様な指導法	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第5章を通読すること。	1時間
第8回	道徳科の教材研究 ④ 生命・自然との関わりを活かした授業設計	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第6章を通読すること。	1時間

第9回	指導案の作成 ① 資料・ねらい・発問の工夫	中学校道徳科の学習指導案の素材となる資料を探して持ってくること。	1時間
第10回	指導案の作成 ② 導入・展開・終末の工夫、学修評価の在り方	中学校道徳科の学習指導案を導入・展開・終末で組み立ててくること。	1時間
第11回	模擬授業の実践 ① 自己との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること。	1時間
第12回	模擬授業の実践 ② 他者との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること。	1時間
第13回	模擬授業の実践 ③ 集団・社会との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること。	1時間
第14回	模擬授業の実践 ④ 生命・自然との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること。	1時間
第15回	まとめ:相互評価・レポート返却・成績説明 定期試験は実施しない。	学生が自らの模擬授業についてレポートを良かった点・悪かった点・改善案で作成すること。	1時間

科目名	道徳理論と指導法			開講年度	2021年度春学期			
担当者	塩見 剛一			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校教育「特別の教科 道徳」での授業実践について理解し、指導方法の基礎を身につける。							
授業の目的及び概要	本講義では、社会生活を営む人間が不可避免的に遭遇する規範である道徳について、いかに学ばれ、教えられるのかを考察する。学校教育における道徳の指導にかかわる科目であるため、「道徳の時間」および「特別の教科・道徳」を要として、各教育領域でおこなわれる道徳教育の指導方法など、現在の学修指導要領および今後の教科化を見据えた道徳教育の実践について理解することを授業内容の中心に据える。そのうえでさらに道徳そのものである「道徳性」や「倫理」について、哲学的・倫理的な視点からの考察を紹介し、道徳教育の歴史を振り返ることによって道徳、および「道徳を教育すること」に対する多様な考え方に触れる。それを踏まえて、今後の学校教育における道徳教育の変化について考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	学校教育の一領域である「道徳教育」について、現行の学修指導要領に基づく学校道徳教育の基礎的な知識を得たうえで、道徳教育の実践にあたって必要な、指導方法の基本的理解と基礎的な実践力の獲得を授業の到達目標とする。 そのうえで、一元的な道徳理解にとどまらない、多様な道徳観に触れることで自らがこれまで意識することのなかった道徳への問いかけや、道徳に対する自己の一方的な思い込みに疑問をもち、道徳観の広がりを得ることを、より高次の到達目標とする。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	フィードバックの方法として、中間試験(小テスト)については、実施した次の授業回に内容にかんする解説をおこなう。また、授業中試験は、個別の質問の申し出に応じて回答する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編、文部科学省、教育出版、2018年、ISBN:9784316300849							
参考書	広岡義之編『新しい道徳教育—理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年 加藤尚武編『徳』の教育論』芙蓉書房出版、2009年 川本隆史ほか『マイクロ・エッセイ—小銭で払う倫理学』昭和堂、1993年							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	小学校・中学校での道徳教育は従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」へと変更し、その充実が求められています。それゆえ道徳の授業で用いることのできる「魅力的な教材」となる書物や、授業を豊かにする話題、経験などを今のうちから探しておくといでしょう。一方で「道徳」は、ただ授業実践のためのだけの題材ではなく、ひとりの教師、ひいてはひとりの人間としての自らの生き方にかかわります。それゆえ、ただ題材として客観的に捉えるだけでなく、自分にとって「道徳的」であるとはどういうことなのか、日々の暮らしのなかで主観的に省察し、道徳にかかわりながら「生きること」を実践していただければ、と考えています。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	「学校教育における道徳教育とは」と「道徳とは何か、道徳教育とは何か」という二段階で道徳教育を考え、学ぶことについて	事前に『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』を入手し、目次に目を通しておく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	3時間
第2回	「改正教育基本法」に即した学習指導要領における道徳教育の役割について	『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の第1章を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	3時間
第3回	学制～修身科の位置づけ	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	3時間
第4回	特設道徳～「教科化」をめぐるこれまでの議論	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを紹介し、ノートをまとめなおす。	3時間

第5回	エリクソン・ピアジェの理論から道徳性の発達について考える	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	3時間
第6回	道徳性の芽生え、「教育的雰囲気」について	事前：中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	4時間
第7回	「教育の根本精神」にもとづく道徳教育の基本理念について	事前：中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	4時間
第8回	道徳的価値と4つの視点について 中間試験	事前：中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後：試験の補充プリントによる学び直し 講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。	5時間
第9回	内容と指導時期の明確化について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし 事後：第13回目授業時に使用する指導案の作成	5時間
第10回	全面主義と特設主義について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし 事後：第13回目授業時に使用する指導案の作成	5時間
第11回	読み物資料、話し合い、数値化された評価との違いについて	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし 事後：第13回目授業時に使用する指導案の作成	5時間
第12回	道徳指導の進め方、指導案の書き方について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし 事後：第13回目授業時に使用する指導案の作成	5時間
第13回	各自の作成した指導案をグループ間で相互に論評する	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし	4時間
第14回	道徳の教科化、世界の価値関係教育について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし	4時間
第15回	これまでの授業の振り返りと理解度の確認をおこなう。	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。 事後：指定プリントへの学習内容のまとめなおし	4時間

科目名	道徳理論と指導法			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	醍醐 身奈			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	道徳教育、及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法の基礎を学び、授業実践力を養う。							
授業の目的及び概要	本講義では、道徳の意義や原理をベースに道徳教育や道徳科の目標、内容を理解するとともに、教育経済学や学校経営学といった観点からも、現代社会における道徳教育の課題を考察する。ここでは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法を学び、さらに学習指導案・教材の作成やグループによる協働学習を通じて実践的な事柄についての理解を深めることを目的とする。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	①道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル・学級経営・地域社会との連携等)を理解する。 ②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や、その要となる道徳科における目標や内容を理解する。 ③道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し、学習指導計画、指導案の作成ができる。 ④道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ⑤模擬授業の実施とその振り返りを通して、教材研究、授業改善の視点を身につけている。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	1. 授業の最後に学生が振り返りシート(コメント欄も含む)を提出し、それに対して教員がコメントを返す。 2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを返す。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキスト:『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳』文部科学省(2017), 教育出版, ISBN:978316300849 (本講義でも頻繁に使用し、かつ教育実習などでも必携となるため、購入が必要となる)							
参考書	参考書:『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄編著(2017), 教育開発研究所, ISBN:9784865607215、『中学校教育課程実践講座 特別の教科 道徳』押谷由夫編著(2018), ぎょうせい, ISBN:9784324103272 ※必購入ではないが、評価の方法や授業実践力をより高めたいと考えている人に勧める。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	0	その他(%)	・小テストなどは、試験終了後に解答・解説を行う。		
この科目の履修にあたって	事前学修:シラバスに記載されている事前学修の内容を予め熟読し、事前学修を行うこと。 事後学修:講義内容についてノートにまとめ、復習を行う。また、授業で出された課題については次の授業、または提出期限まで必ずやってくること。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	道徳の意義や原理 ・学校の最新事情や道徳教育の基礎確認(オリエンテーション)	事前学修:本講義で指定されているテキストのpp.134~143を読んでおくこと。 事後学修:講義内容についてノートにまとめ、復習を行う。 また、本講義で出された課題プリントについては次の授業、または提出期限まで必ずやってくること。さらに発表できるようにコメントをまとめておくこと。	4時間
第2回	子供の心の成長と道徳性の発達 ・心理学・社会学からのアプローチによる理論学習	事前学修:第1回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。また第1回で提示された課題について、自分なりの言葉で発表できるようにしておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。心理学・社会学の専門用語が多く出るので、明確に覚えるようにしておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間

第3回	道徳教育の指導計画及び教育活動全体を通じた指導の在り方 ・PDCAを踏まえた指導計画についての学習	事前学修:第2回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。複数枚の補助プリントが渡されるため、忘れずに整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第4回	我が国における道徳教育の歴史 ・「道徳の時間」の特設と「特別の教科 道徳」までの変遷	事前学修:第3回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。道徳教育に関する戦前・戦後の動向について、教育史をベースに問うので、日本教育史の概要をみておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。特に、昭和33年を機に道徳教育がどのように変遷したのかをまとめておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第5回	現代における道徳教育の課題 ・いじめや情報モラルについての学習	事前学修:第4回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。情報モラルに関する内容を問うので、特に学校教育に関わる情報モラルの最新動向について、教育時事なども含めて事前にみておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。情報モラルの内容については、常に最新情報を取り入れるようにしておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第6回	道徳科における指導方法の理解 ・道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習	事前学修:第5回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。「特別の教科 道徳(道徳科)」に関する内容を問うので、なぜ道徳科が設置されたのか、その社会的背景について説明できるように事前準備しておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。本講義では、様々な指導方法を提示するが、十分に内容を整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第7回	道徳教育及び道徳科の目標と学習内容についての理解 ・学習指導要領の内容についての学習/確認テスト(小テスト)	事前学修:第1~6回までの講義内容について復習を行い(配付されたプリント類を熟読)、確認(小)テストにのぞむこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。道徳教育と道徳科の目標の違いは何かについて具体的に説明できるようにまとめる。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第8回	授業実践① ・読み物資料の活用とロールプレイング	事前学修:第7回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。学校の道徳授業で活用されている読み物資料にはどのようなものがあるのかについて、各教科書会社のHPなどを閲覧し、事前に大まかな内容を捉えておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。ロールプレイングにおけるメリット・デメリットについて、整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第9回	道徳科における様々な教材についての理解 ・教材の活用や作成についての留意点	事前学修:第8回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。学校現場へのICT普及率の拡大にともない、道徳科における教材にも様々なものが活用されるようになってきている。どのような教材が出てきているのかについて、事前に調べておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。教材作成にあたって注意すべき点などについて、整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第10回	道徳授業の組み立てと学習指導案の作成① ・指導過程の理解	事前学修:第9回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。導入・展開・終末の各ステージにおいて、どのようなことに注意しながら授業を進めていく必要があるのかについて、整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第11回	道徳授業の組み立てと学習指導案の作成② ・指導案作成の留意点	事前学修:第10回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。指導のプロセスについて問うので、再確認しておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。学習指導案については、自分で作成することになるので、要点をチェックしておく。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間

第12回	道徳科の特性を踏まえた学習評価 ・さまざまな評価方法についての学習	事前学修:第11回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。道徳科における評価の特徴について簡単に説明できるようにしておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。道徳科の様々な評価方法について、自分なりの言葉でまとめなおしておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	4時間
第13回	諸外国における道徳教育の実際とグローバル社会への対応 ・キャラクターエデュケーションやシティズンシップ教育の動向	事前学修:第12回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。諸外国における学校教育について知っていることなどをたずねるため、自分なりのコメントが出せるように準備しておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。諸外国における学校教育の特徴について、説明ができるように整理しておくこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	5時間
第14回	授業実践② ・自作教材を用いた道徳授業の実践	事前学修:第13回授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。模擬授業担当者は、授業ができるように準備しておくこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。 ・PowerPointとプリントを連動させ、聞き逃した箇所などは次回の授業までに確認しておくこと。また、授業内容について次回授業の冒頭部分で質問するので、プリント内の()部分やここがポイントであると指摘された箇所は、回答できるように復習してのぞむこと。	5時間
第15回	第15回:道徳教育の総括	事前学修:本講義で使用した中学校学習指導要領解説(特別の教科 道徳)の全てのページ、および第1~14回までに配られたプリント等を予め熟読し、確認してから授業にのぞむこと。 事後学修:今回の講義内容についてノートにまとめ、復習を行うこと。	5時間

科目名	総合的な学習の時間の指導法		開講年度	2021年度春学期				
担当者	平阪 美穂		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	総合的な学習の時間における学習指導の立案と実施							
授業の目的及び概要	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたって、その全体的な計画および年間指導計画、単元計画の立案とその実施、実施後の評価などの在り方について学ぶ。それらに基づいて、実際に総合的な学習の時間の授業を計画立案し、模擬授業を行ったうえで、よりよい授業の在り方について検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたり、さまざまな側面から学習指導の立案と実施に関することがらを学び、グループ討議などを経て実施する模擬授業などを通じて、その充実を図る方法を検討し、実際に教育現場に立って学習を推進していく上で必要な素養を高めることを目標とする。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	質問感想意見等の収集を行い、次時において必要に応じてそれらに対するコメントを行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 文部科学省, 東山書房, 平成29年, ISBN: 978-4-8278-1577-1 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編 文部科学省, 学校図書, 平成30年, ISBN: 978-4762505362 授業全体を通して使用します。							
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示), 文部科学省, 東山書房, 平成29年, ISBN: 978-4827815795 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示), 文部科学省, 東山書房, 平成30年, ISBN: 978-4827815672 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社, 2020年, ISBN: 978-4491041421							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	総合的な学習の時間の具体的な取り組みについては、各学校独自の取り組みも多いため多種多様であり、国語科や社会科などの教科科目等とは異なり、とらえどころの無い部分がひとつの特徴ともいえるかも知れません。それは同時に、多様な学問分野や現代社会のさまざまな側面にまたがる事象を取り扱うことにもなるため、大変刺激的な取り組みになる可能性も秘めていることとなります。 ただし、あくまで学校教育の中で行われる授業であるかぎり、一定の学力を生徒に付けることが必要であり、そのためには何をどのような方法で身に付けさせるのかという「教育内容」と「教育方法」の両輪を教員側がしっかりと認識しつつ進めていく必要があります。 履修中はそのような観点を忘れることなく、授業構想に積極的に取り組んでください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの「トップページ」→「キャンパスライフ」→「教務情報」→「オフィスアワー」 <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	総合的な学習の時間を通じて育成を期待する力	事後:学習指導要領解説の該当部分(第1章)を読み、平成29, 30年版の学習指導要領で示された総合的な学習・探求の時間の特徴をまとめる。	4時間
第2回	総合的な学習の時間の実施にあたっての校内体制の構築について	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	2.5時間
第3回	全体計画の立案について	事前:総合的な学習・探求の時間の実践事例を収集する。 事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	4時間
第4回	年間指導計画の立案について	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	2.5時間
第5回	単元計画の立案について	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	2.5時間
第6回	総合的な学習の時間の教材研究	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	2.5時間

第7回	総合的な学習の時間の評価について	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。 ルーブリック評価、ポートフォリオ評価のポイントをまとめる。	4時間
第8回	各教科科目との関連性について	事後:学習指導要領解説の該当部分を読む。 授業内容の振り返りをする。	2.5時間
第9回	学習指導案の立案①:地域の伝統や文化	事後:自分が居住する地域、出身地の地域課題について調べ、総合的な学習・探求の時間のテーマ、具体的な学習・探究活動活動を検討する。	5時間
第10回	学習指導案の立案②:環境問題	事後:自分が居住する地域、出身地の環境問題について調べ、総合的な学習・探求の時間のテーマ・具体的な学習・探究活動活動を検討する。	5時間
第11回	学習指導案の立案③:職業選択	事前:文部科学省ウェブサイトにある「中学校キャリア教育の手引き」(2011年3月)「高等学校キャリア教育の手引き」(2011年11月)第1章1.2節を読む。 事後:居住、出身の自治体のキャリア教育について調べる。	5時間
第12回	学習指導案(地域の伝統や文化)に基づく模擬授業の実施と振り返り	事前:指導案を作成する。 事後:指導案を修正する。	5.5時間
第13回	学習指導案(環境問題)に基づく模擬授業の実施と振り返り	事前:指導案を作成する。 事後:指導案を修正する。	5.5時間
第14回	学習指導案(職業選択)に基づく模擬授業の実施と振り返り	事前:指導案を作成する。 事後:指導案を修正する。	5.5時間
第15回	まとめ:総合的な学習の意義と目標・指導計画の作成法・指導と評価についての再確認	事後:ノート、資料を読み直して授業内容の振り返りをする。	4時間

科目名	総合的な学習の時間の指導法		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	武田 章		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	総合的な学習の時間における学習指導の立案と実施							
授業の目的及び概要	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたって、その全体的な計画および年間指導計画、単元計画の立案とその実施、実施後の評価などの在り方について学ぶ。それらに基づいて、実際に総合的な学習の時間の授業を計画立案し、模擬授業を行ったうえで、よりよい授業の在り方について検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたり、さまざまな側面から学習指導の立案と実施に関することがらを学び、グループ討議などを経て実施する模擬授業などを通じて、その充実を図る方法を検討し、実際に教育現場に立って学習を推進していく上で必要な素養を高めることを目標とする。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎授業におき質問感想意見等の収集を行い、次時において必要に応じてそれらに対するコメントを行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	指定しません。授業で資料を配布します。							
参考書	文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 中学校編』 文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編』 文部科学省『中学校学習指導要領』(最新版) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』(最新版) 文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版) 田村学『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編』							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	模擬授業・総合学習構想発表等でのレジュメや指導案、発表、質疑応答の様子等		40
この科目の履修にあたって	総合的な学習の時間の具体的な取り組みについては、各学校独自の取り組みも多いために多種多様であり、国語科や社会科などの教科科目等とは異なり、とらえどころの無い部分がひとつの特徴ともいえるかも知れません。それは同時に、多様な学問分野や現代社会のさまざまな側面にまたがる事象を取り扱うことにもなるため、大変刺激的な取り組みになる可能性も秘めていることとなります。 ただし、あくまで学校教育の中で行われる授業であるかぎり、一定の学力を生徒に付けることが必要であり、そのためには何をどのような方法で身に付けさせるのかという「教育内容」と「教育方法」の両輪を教員側がしっかりと認識しつつ進めていく必要があります。 履修中はそのような観点を忘れることなく、授業構想や模擬授業等にも積極的に取り組んでください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	総合的な学習の時間を通じて育成を期待する力	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第2回	総合的な学習の時間の実施にあたっての校内体制の構築について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第3回	全体計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第4回	年間指導計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第5回	単元計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第6回	総合的な学習の時間の教材研究	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間

第7回	総合的な学習の時間の評価について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第8回	各教科科目との関連性について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第9回	学習指導案の立案 ①:地域の伝統や文化	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第10回	学習指導案の立案 ②:環境問題	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第11回	学習指導案の立案 ③:職業選択	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第12回	学習指導案(地域の伝統や文化)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第13回	学習指導案(環境問題)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第14回	学習指導案(職業選択)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間
第15回	まとめ:総合的な学習の意義と目標・指導計画の作成法・指導と評価についての再確認	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り	4時間

科目名	特別活動論	開講年度	2021年度春学期					
担当者	醍醐 身奈	配当年次	234					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。							
授業の目的及び概要	特別活動の意義、目標、内容、そして指導の在り方を理解し、集団活動を安心・安全に行うために必要な知識やスキルを修得することが、本講義における主な目的である。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1)特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2)教育課程における特別活動の位置づけ、他領域との関係を理解し、その内容(学級活動、生徒会活動、学校行事など)の特質を理解する。 3)特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	・毎回の授業などで振り返り(感想)シートを書いてもらい、それに対してコメントを付けて返却を行う。 ・返却可能な提出物については、コメントを付けて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』文部科学省(2017)、東山書房、ISBN: 9784827815627 ※授業中に頻繁に使用するだけでなく、教育実習などでも必要になるため授業開始時まで購入しておくこと。							
参考書	・『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』藤田晃之(2017)、明治図書 ※特別活動について、さらに深掘りして学びたいという学生に対して推薦する参考書である。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	・本講義では、調べ学習やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業、教材作成など、特別活動に関わるあらゆる知識・スキルを身に付けてもらうための実践的な内容を盛り込んでいる。毎時、次の講義で使用するものを提示するので、必要なものは忘れずに準備しておくこと。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	・特別活動の目標及び主な内容についての理解(各教科との関連等) ▷ 特別活動とは何か(オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など)	事前学修:テキストを購入し、全体を一読しておくこと。 事後学修:課題となっているプリントを次の講義時まで必ず作成しておくこと。また、本講義で取り上げた内容についてテキストの該当箇所を読んでおくこと。	2時間
第2回	・教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方 ▷ カリキュラム・マネジメントと特別活動における関連についての説明を聞き、様々な指導方法についての知識を身に付ける。	事前学修:前回の講義で取り上げた特別活動の意義や目標について、テキストの該当箇所を一読しておくこと。 事後学修:本講義で取り上げた様々な指導方法について、テキストの該当箇所を読み、ノートやデータに整理しておくこと。	2時間
第3回	・特別活動の歴史 ▷ 学習指導要領と特別活動の変遷について学び、それらが現代の学校教育とどのように関わってきたのかについて考察する。	事前学修:前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の歴史について概略的に調べておくこと。 事後学修:本講義で取り上げた特別活動の歴史について、社会情勢と共にどのように変化してきたのか、ノートやデータに記録して整理しておくこと。	2時間
第4回	・学級活動・ホームルーム活動の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、学級活動やホームルーム活動にどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。	事前学修:自身が経験してきた学級活動・ホームルーム活動の内容について整理し、発表できるようにしておくこと。 事後学修:本講義で出された課題について、調べ学習やフィールドワークなどを通じて考察を行い、次回講義までに準備しておくこと。	2時間

第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の実践① ▷ 合意形成に向けた話し合い活動、グループワーク等の実践的な活動を行う。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の学級活動・ホームルーム活動について十分に事前学修して講義にのぞむこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた話し合い活動やグループワークの指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、生徒会活動にはどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の生徒会活動に関わる指導上のポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた生徒会活動における指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、学校行事にはどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の学校行事における調べ学習を行ってこること。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた学校行事における指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。また、学校行事に関わる具体的な内容についても、すくなく言えるようにしておくこと。</p>	3時間
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における取組の評価と改善活動についての理解 ▷ 特別活動における様々な評価方法を学び、PDCAサイクルにどのように生かしていくのかを理解する。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の評価に関わるポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における様々な評価方法のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・「各教科」や「特別の教科 道徳」、「総合的な(学習/探究)の時間」との関連についての理解 ▷ 実践事例を基に、特別活動を他の教科・領域とどのように関わらせていくのかを具体的に学ぶ。 	<p>事前学修: 特別活動と各教科、他領域などとの関連について、テキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における各教科や他領域との関連性について、ポイントをまとめノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における指導計画と授業指導案の作成① ▷ 既習事項を整理し、特別活動における指導計画や指導案を作成するための基本的事項を学ぶ。 	<p>事前学修: 特別活動の指導計画および指導案に関わるポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で出された課題について、次回講義までに完成させてこること。</p>	4時間
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における指導計画と授業指導案の作成② ▷ 既習事項を整理し、特別活動における指導計画や指導案を作成するための基本的事項を学ぶ。 	<p>事前学修: 自分で作成した課題について、講義中に発表・説明できるように準備してこること。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における指導計画と授業指導案の作成ポイントをまとめ、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	3時間
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の実践② ▷ 既習事項を整理し、特別活動において活用できる教材及び指導方法について構想し、模擬授業を行う。 	<p>事前学修: 模擬授業ができるように、事前準備を行ってこること。</p> <p>事後学修: 本講義内で指摘された指導内容や指導法のポイントなどについて、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における家庭・地域との連携の工夫① ▷ 特別活動を介して家庭と地域がどのように連携しているのか、その実践例について調べ学習を行い、発表を行うものとする。 	<p>事前学修: 特別活動と家庭・地域との関連について、テキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた内容を調べ学習を通じて、さらに具体的に掘り下げて事例を集めておくこと。</p>	2時間
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における家庭・地域との連携の工夫② ▷ 特別活動を介して家庭と地域がどのように連携しているのか、その実践例について調べ学習を行い、発表を行うものとする。 	<p>事前学修: 特別活動と家庭・地域との関連について、特徴的な取り組みを行っている事例を調べ、発表できるようにしておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた内容を基に、特別活動における家庭・地域の連携におけるポイントを、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動についての総括 ▷ 理解度テストを実施し、特別活動における様々な知識・スキルについて振り返りと定着を図る。 	<p>事前学修: 本講義で取り上げた特別活動全体の内容について、総復習を行ってこること。</p> <p>事後学修: 特別活動に関する基本的知識で曖昧になっている箇所については、ノートやデータにまとめて整理しておくこと。</p>	4時間

科目名	特別活動論			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	醍醐 身奈			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。							
授業の目的及び概要	特別活動の意義、目標、内容、そして指導の在り方を理解し、集団活動を安心・安全に行うために必要な知識やスキルを修得することが、本講義における主な目的である。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1)特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2)教育課程における特別活動の位置づけ、他領域との関係を理解し、その内容(学級活動、生徒会活動、学校行事など)の特質を理解する。 3)特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	・毎回の授業などで振り返り(感想)シートを書いてもらい、それに対してコメントを付けて返却を行う。 ・返却可能な提出物については、コメントを付けて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』文部科学省(2017)、東山書房、ISBN: 9784827815627 ※授業中に頻繁に使用するだけでなく、教育実習などでも必要になるため授業開始時まで購入しておくこと。							
参考書	・『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』藤田晃之(2017)、明治図書 ※特別活動について、さらに深掘りして学びたいという学生に対して推薦する参考書である。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	・本講義では、調べ学習やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業、教材作成など、特別活動に関わるあらゆる知識・スキルを身に付けてもらうための実践的な内容を盛り込んでいる。毎時、次の講義で使用するものなどを提示するので、必要なものは忘れずに準備しておくこと。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	・特別活動の目標及び主な内容についての理解(各教科との関連等) ▷ 特別活動とは何か(オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など)	事前学修:テキストを購入し、全体を一読しておくこと。 事後学修:課題となっているプリントを次の講義時まで必ず作成しておくこと。また、本講義で取り上げた内容についてテキストの該当箇所を読んでおくこと。	2時間
第2回	・教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方 ▷ カリキュラム・マネジメントと特別活動における関連についての説明を聞き、様々な指導方法についての知識を身に付ける。	事前学修:前回の講義で取り上げた特別活動の意義や目標について、テキストの該当箇所を一読しておくこと。 事後学修:本講義で取り上げた様々な指導方法について、テキストの該当箇所を読み、ノートやデータに整理しておくこと。	2時間
第3回	・特別活動の歴史 ▷ 学習指導要領と特別活動の変遷について学び、それらが現代の学校教育とどのように関わってきたのかについて考察する。	事前学修:前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の歴史について概略的に調べておくこと。 事後学修:本講義で取り上げた特別活動の歴史について、社会情勢と共にどのように変化してきたのか、ノートやデータに記録して整理しておくこと。	2時間
第4回	・学級活動・ホームルーム活動の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、学級活動やホームルーム活動にどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。	事前学修:自身が経験してきた学級活動・ホームルーム活動の内容について整理し、発表できるようにしておくこと。 事後学修:本講義で出された課題について、調べ学習やフィールドワークなどを通じて考察を行い、次回講義までに準備しておくこと。	2時間

第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の実践① ▷ 合意形成に向けた話し合い活動、グループワーク等の実践的な活動を行う。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の学級活動・ホームルーム活動について十分に事前学修して講義にのぞむこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた話し合い活動やグループワークの指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、生徒会活動にはどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の生徒会活動に関わる指導上のポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた生徒会活動における指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の特質についての理解 ▷ 資料や映像教材を通じて、学校行事にはどのようなことが実践されているのかについて考察し、指導上の留意点について考えを書く。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の学校行事における調べ学習を行ってこること。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた学校行事における指導上のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。また、学校行事に関わる具体的な内容についても、すくなく言えるようにしておくこと。</p>	3時間
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における取組の評価と改善活動についての理解 ▷ 特別活動における様々な評価方法を学び、PDCAサイクルにどのように生かしていくのかを理解する。 	<p>事前学修: 前回の講義で出された内容を踏まえ、特別活動の評価に関わるポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における様々な評価方法のポイントを、ノートやデータに記録して整理しておくこと。</p>	2時間
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・「各教科」や「特別の教科 道徳」、「総合的な(学習/探究)の時間」との関連についての理解 ▷ 実践事例を基に、特別活動を他の教科・領域とどのように関わらせていくのかを具体的に学ぶ。 	<p>事前学修: 特別活動と各教科、他領域などとの関連について、テキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における各教科や他領域との関連性について、ポイントをまとめノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における指導計画と授業指導案の作成① ▷ 既習事項を整理し、特別活動における指導計画や指導案を作成するための基本的事項を学ぶ。 	<p>事前学修: 特別活動の指導計画および指導案に関わるポイントをテキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で出された課題について、次回講義までに完成させてこること。</p>	4時間
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における指導計画と授業指導案の作成② ▷ 既習事項を整理し、特別活動における指導計画や指導案を作成するための基本的事項を学ぶ。 	<p>事前学修: 自分で作成した課題について、講義中に発表・説明できるように準備してこること。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた特別活動における指導計画と授業指導案の作成ポイントをまとめ、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	3時間
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の実践② ▷ 既習事項を整理し、特別活動において活用できる教材及び指導方法について構想し、模擬授業を行う。 	<p>事前学修: 模擬授業ができるように、事前準備を行ってこること。</p> <p>事後学修: 本講義内で指摘された指導内容や指導法のポイントなどについて、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における家庭・地域との連携の工夫① ▷ 特別活動を介して家庭と地域がどのように連携しているのか、その実践例について調べ学習を行い、発表を行うものとする。 	<p>事前学修: 特別活動と家庭・地域との関連について、テキストの該当箇所を一読して把握しておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた内容を調べ学習を通じて、さらに具体的に掘り下げて事例を集めておくこと。</p>	2時間
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における家庭・地域との連携の工夫② ▷ 特別活動を介して家庭と地域がどのように連携しているのか、その実践例について調べ学習を行い、発表を行うものとする。 	<p>事前学修: 特別活動と家庭・地域との関連について、特徴的な取り組みを行っている事例を調べ、発表できるようにしておくこと。</p> <p>事後学修: 本講義で取り上げた内容を基に、特別活動における家庭・地域の連携におけるポイントを、ノートやデータに記録しておくこと。</p>	2時間
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動についての総括 ▷ 理解度テストを実施し、特別活動における様々な知識・スキルについて振り返りと定着を図る。 	<p>事前学修: 本講義で取り上げた特別活動全体の内容について、総復習を行ってこること。</p> <p>事後学修: 特別活動に関する基本的知識で曖昧になっている箇所については、ノートやデータにまとめて整理しておくこと。</p>	4時間

科目名	特別活動論		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	橋本 幸一		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。							
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1)特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2)教育課程における特別活動の位置、他領域との関係を理解し、その内容(学級活動、生徒会活動、学校行事など)の特質を理解する。 3)特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	授業の配付資料は事前に授業支援システム「Learning Portal」にアップしておくので事前・事後学習に活用すること。							
参考書	とくになし。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	40	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業内のレポートやふりかえり(考察)などの提出が中心なので、授業に積極的に参加することが最重要である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	2時間
第2回	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第3回	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第4回	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第5回	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第6回	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第7回	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第8回	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間

第9回	学校行事	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第10回	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第11回	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第12回	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第13回	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第14回	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間
第15回	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	3時間

科目名	教育方法論		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	中村 哲也		配当年次	234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	アクティブ・ラーニングをアクティブに学ぶ							
授業の目的及び概要	この科目では、「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点での授業改善について学ぶ。それはまさに一方的・一斉授業からの脱却を意味しており、この授業自体も学生が学びの中心となることを目指す。学生自ら学習課題を設定して協同して問題解決に取り組んだり、学生同士が交流を通じて思考を広げることができるような学習活動になる。そのような学生同士の協同を通じて自己の考えを深めていくような「深い学び」を目的とする。単に知識としてではなく、実際にアクティブ・ラーニングを体験することで、教師として教壇に立った時に、より実践的な指導が可能となる。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	新指導要領改訂に伴う「主体的・対話的で深い学び」について、学校現場ではどのような方法が用いられているのか、またそこで大切になることは何なのか。それらについて、自らが問題意識を持ち調べそれを他の人に伝えるという交流活動を通して学ぶ。それは知識を覚えるだけではなく、情報の収集や活用能力、また表現力(プレゼン能力やコミュニケーション能力)といった活用力を養うことにもつながる。この科目の到達目標は、以下の3点である。 1)的確に情報を収集し、まとめることができる。 2)収集した情報を的確に表現し、伝えることができる。 3)伝えられた情報を自分のものとして理解することができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	各自が調べた内容を翌週の授業で紹介し、質問の回答や補足説明を行う。 またグループ内で意見交換したり全体発表することで、その都度学生の相互評価、教員からの論評などのフィードバックを行う。 学生が調べた内容に関する確認問題とそれに関する評価基準(ルーブリック)を事前に作成しておく。問題解答後に評価基準を示し、学生相互に確認を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	杉江修治「協同学習入門 基本の理解と51の工夫」(ナカニシヤ出版、2011) *テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすめられませんので、必ず購入してください。							
参考書								
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	20	レポートなど授業外課題(%)	40	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	20	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	オリエンテーション及び教育方法の基礎知識	予習: 今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく(120分) 復習: 授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく(120分)	4時間
第2回	学習課題の提示と学習内容分担	予習: 学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。(120分) 復習: それぞれが分担した学習内容項目について、文献等で調べる。(240分)	6時間
第3回	各自の分担学習内容のまとめ	予習: 各自が分担した学習内容項目について調べた内容について文章としてまとめる。(240分) 復習: 各自が分担した内容について補足を加えながら、説明用のフリップを作成する。(120分)	6時間

第4回	学習内容の発表準備	予習: 学習内容をどのようにプレゼンするかのアウトラインを考える。(120分) 復習: 学習内容を説明するためのプレゼンを作成する。(240分)	6時間
第5回	発表内容の確認	復習: 各自が制作したプレゼン資料を見て、内容をまとめるとともに講評をまとめる。(120分)	2時間
第6回	発表内容の振り返りとまとめ	復習: 各自の発表の内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第7回	内容に関する確認テスト	復習: 確認テストの内容を振り返り、十分理解できていなかった点について確認しておく。(120分)	2時間
第8回	教育方法に関する課題の設定	予習: いわゆるアクティブ・ラーニングの視点での授業方法についてどのようなものがあるか調べておく。(120分) 復習: 自分が設定した学習課題に関する内容を文献等から調べる。(240分)	6時間
第9回	設定課題ごとの情報集めとまとめ	予習: 各自が分担した学習内容項目について調べた内容について文章としてまとめる。(240分) 復習: 各自が分担した内容について補足を加えながら、説明用のフリップを作成する。(120分)	6時間
第10回	課題内容の発表準備	予習: 学習内容をどのようにプレゼンするかのアウトラインを考える。(120分) 復習: 学習内容を説明するためのプレゼンを作成する。(240分)	6時間
第11回	課題発表内容の確認	復習: 各自が制作したプレゼン資料を見て、内容をまとめるとともに講評をまとめる。(120分)	2時間
第12回	課題発表内容の振り返りとまとめ	復習: 各自の発表な内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第13回	課題内容に関する確認テスト	復習: 確認テストの内容を振り返り、十分理解できていなかった点について確認しておく。(120分)	2時間
第14回	これまでの教育方法に関する内容に関するまとめと確認	予習: 学習指導要領を参照しつつ、主体的・対話的で深い学びが何かを理解しておく。その上で、主体的・対話的で深い学びを支える授業づくりの事例について調べておく。(120分) 復習: 主体的・対話的で深い学びを支えるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)	4時間
第15回	教育方法に関するレポートの作成	予習: 今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする。(120分) 復習: 教育方法に関する学習内容に関しての相互評価などから、自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる。(120分)	4時間

科目名	教育方法論			開講年度	2021年度春学期			
担当者	北川 剛司			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究							
授業の目的及び概要	<p>本授業は、教師の仕事を様々な視点で捉え教育方法に関する基礎的な理解を目指す。とりわけ、教授＝学習活動としての授業に焦点を当て、教育の方法・技術への理解を深める。また、21世紀を生きる子どもたちの教育に携わる教師の専門性について理解を深める。</p> <p>本授業の内容は、教育方法に関する基礎的な事項を中心とするため、教職に就く学生が広く受講し、学んだことをその後の教職課程での学修の中で応用・発展していくことを期待する。</p> <p>講義の前半に授業計画で予定されているテーマと関わって、配布した資料および電子教材を使って、教育方法、授業設計と関わる専門知識を学ぶ。続いて取り上げた話題に関わって、各自が考えるための課題(3回程度)を出し、ワークシートへの記入や指導案作成を求める。提出されたものに関わって、受講者相互に意見交換したり、コメント返却したり、授業中に取り上げたりしながら講義で話されたテーマに関わっての理解を深める。</p> <p>また、指導案作成の具体を1つ1つ学んでいく活動を行う。繰り返し行う指導案作成の活動を通じて、最終的に、まとめとして授業設計の方法を本人が他人にわかりやすく語る場面を用意する。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>○授業を構成する基礎的な項目(アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり、学習評価、授業規律、授業形態、情報機器の活用、子ども理解、等)に関する知識を習得する。</p> <p>○教育方法としてのアクティブ・ラーニングの理念について概ね説明することができる。</p> <p>○学習評価による教育課程改善に関する基本的な事項を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	<p>・平成29年改訂中学校学習指導要領総則編</p> <p>・平成29年改訂中学校学習指導要領総則編解説(上記2つとも、冊子体のもも販売されていますが、文部科学省HPIに全文公開されていますので事前にダウンロードし持参したPC等で閲覧してもらってもかまいません。)</p> <p>下記は文部科学省HP内の該当箇所へのリンク。 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</p>							
参考書	<p>・佐藤学『教育の方法(放送大学叢書)』左右社、2010年。ISBN-10: 4903500349</p> <p>・田中耕治編『よくわかる教育評価 第二版』ミネルヴァ、2010年。ISBN-10: 4623059146</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	40	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	30	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教職を目指すみなさんは、「よい授業とはどんなものだろう」と考えたことがあると思います。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信につながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるもののかかわりでのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	・事前に平成29年度告示 中学校学習指導要領解説(総則編)pp.1-5を読んでおくようにしてください。	2時間
第2回	教授学のキーワード(アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第1回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第3回	教授学のキーワード(授業規律、授業形態、情報機器の活用)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第2回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間

第4回	意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、目標の設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかについてもあわせて考える。指導案作成2(目標の作成)	・第3回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第5回	授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときにその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・第4回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 ・第5回授業中に配布した新学習指導要領の重要事項に関わる資料を使って復習を行ってください。	4時間
第6回	授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法を考える。	・第5回授業後に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第7回	授業において、教師が語る、子どもが語る、お互いに話し合う場面に着目し、個別指導と集団指導におけるコミュニケーションについて考える。指導案作成3(本時の展開の記入方法)	・第6回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第8回	子どもにとって学びたい状況が導く教材はどのような設計コンセプトを持つといいのか？ここでは作成方法を学ぶ。	・第7回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第9回	子ども達の学びを支援するものとして教材教具、学習環境がある。どのような環境が子ども達の効果的な学びを導くのかを探る。	・第8回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第10回	子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関しての基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・第9回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 (特に、前近代、近代、現代の授業論の特徴が分かるように整理しておくこと)	4時間
第11回	授業実践の計画書としての指導案について考える。その作成の基礎知識を身につける。(単元案と本時案の作成)	・第10回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第12回	課題として出された指導案作成を通して、中学校社会の単元案と1時間の授業をデザインする方法、その実践的な知識を身につける。	・第11回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第13回	デザインした指導案のそれぞれの課題を互いに検討し合い、実践イメージを深め、確かな指導案作成のポイント、その知識をおさえる。	・第12回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第14回	課題やある場面に即した指導・対応の仕方をデザインし、互いに検討し合い、実践イメージを深める。	・第13回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第15回	これまでの講義を振り返る。授業に関する基本的な知識を習得し、理解を深めることができたかどうかを確認する。	・第14回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。 ・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしてください。 ・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしてください。 ・授業実践における陶冶と訓育の理論について説明できるようにしてください。	6時間

科目名	生徒指導・進路指導論			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	市原 由美子			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。</p> <p>1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。</p> <p>2) 上記1)の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。</p> <p>この科目においては、以下の4点を到達目標としている。</p> <p>1) 生徒指導・進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。</p> <p>2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。</p> <p>3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応のあり方を理解する。</p> <p>4) 生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<p>① 受講生が提出した「授業内レポート」に対して毎回コメントを書いて返却する。さらに対面授業においては、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>② 課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。</p> <p>③ レポートについては添削して返却する。</p>							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など							
参考書	「生徒指導提要」(文部科学省)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの「トップページ」→「キャンパスライフ」→「教務情報」→「オフィスアワー」 <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。	4時間
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。	4時間
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。 事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。	4時間

第4回	生徒の発達段階と課題 ① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。 事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。	4時間
第5回	生徒の発達段階と課題 ② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。	4時間
第6回	集団生活と生徒指導 ① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。	4時間
第7回	集団生活と生徒指導 ② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身の学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。	4時間
第8回	集団生活と生徒指導 ③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。	4時間
第9回	集団生活と生徒指導 ④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方考える。	4時間
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。	4時間
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。	4時間
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。	4時間
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。	4時間
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。	4時間
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。	4時間

科目名	生徒指導・進路指導論			開講年度	2021年度春学期			
担当者	市原 由美子			配当年次	234			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。</p> <p>1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。</p> <p>2) 上記1)の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。</p> <p>この科目においては、以下の4点を到達目標としている。</p> <p>1) 生徒指導・進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。</p> <p>2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。</p> <p>3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応のあり方を理解する。</p> <p>4) 生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<p>① 受講生が提出した「授業内レポート」に対して毎回コメントを書いて返却する。さらに対面授業においては、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>② 課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。</p> <p>③ レポートについては添削して返却する。</p>							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など							
参考書	「生徒指導提要」(文部科学省)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの「トップページ」→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。	4時間
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。	4時間
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。 事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。	4時間

第4回	生徒の発達段階と課題① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。 事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。	4時間
第5回	生徒の発達段階と課題② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。	4時間
第6回	集団生活と生徒指導① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。	4時間
第7回	集団生活と生徒指導② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身の学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。	4時間
第8回	集団生活と生徒指導③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。	4時間
第9回	集団生活と生徒指導④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方考える。	4時間
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。	4時間
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。	4時間
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。	4時間
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。	4時間
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。	4時間
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。	4時間

科目名	教育相談論			開講年度	2021年度春学期			
担当者	梅川 康治			配当年次	34			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。</p> <p>この観点を基本として、まず教育相談の教育現場で必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。							
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第2回	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第3回	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第4回	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間

第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ることで、自己と他者の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第7回	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第8回	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論(受容・傾聴・共感等)の具体的な進め方を事例を通して解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第9回	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第11回	生徒の保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第12回	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第13回	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第14回	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第15回	本授業で学修したこれまでの内容を整理し、それらを踏まえて生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間

科目名	教育相談論		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	梅川 康治		配当年次	34				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。</p> <p>この観点を基本として、まず教育相談の教育現場で必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。							
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第2回	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第3回	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第4回	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間

第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ることで、自己と他者の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第7回	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第8回	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論(受容・傾聴・共感等)の具体的な進め方を事例を通して解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第9回	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第11回	生徒の保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第12回	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第13回	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第14回	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間
第15回	本授業で学修したこれまでの内容を整理し、それらを踏まえて生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)	2時間

科目名	教育実践指導論			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	平阪 美穂			配当年次	34			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り							
授業の目的及び概要	3年次の教育実践指導論と4年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学修をふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年、ISBN:978-4827815795 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年、ISBN:978-4827815672							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2~3週間後に本学に帰ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択し」、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」していきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え(4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務) ③教育実習のイメージ化(自身にとっての教育実習の課題を考える)	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直し、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	①学校の長い1日(教員の学校勤務の実際) ②学校経営と校務分掌(組織体としての学校とその実際) ③教職員、生徒との接し方(「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識)	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。	4時間
第3回	①実習日誌の記録(書くことの意義、記入項目と記入方法、活用) ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題(教育実習における達成課題を設定する)	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうして各自の弱点をおさながらふり返る。	4時間

第4回	①ホームルーム指導の実務(特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標) ②「クラスづくり」の実践例(読み合わせと分析)	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する小学校での実践記録から保護者との連携の意味について考察する。	4時間
第5回	①ホームルーム指導の実務(学校行事の目的と意義、進め方、) ②学年担任団の役割(学年集団の指導と連携) ③保護者との連携(信頼と協力) ④課題(次回の学習指導案の目標、ねらいの設定)	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる一朝鮮戦争と冷戦」をもとに、授業プランを構想する。	4時間
第6回	①学習指導案の作成(中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成)	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。	4時間
第7回	①資料(文字・図・映像)の作成と使い方(PCを使用した教材の作成とプロジェクターによる活用)	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。	4時間
第8回	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	教育実習を総括し、文章にまとめる。	4時間
第9回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実践指導論		開講年度	2021年度春学期				
担当者	平阪 美穂		配当年次	34				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り							
授業の目的及び概要	この科目は、3年次の教育実践指導論と一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的な心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学修をふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧に戻り総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりとして自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者で、「教職実践指導論(3年生)」を履修した者。							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあらかじめすることができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	特に指定しない。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取り組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に戻ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択し」、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」していきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	①春学期の授業予定と概要(春学期の3つの区分とその内容) ②教育実習の目的と心構え(4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務) ③教育実習のイメージ化(自身にとっての教育実習の課題を考える)	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直し、自身の教育実習の達成課題をまとめる。(4時間程度)	4時間
第2回	①学校の長い1日(教員の学校勤務の実際) ②学校経営と校務分掌(組織体としての学校とその実際) ③教職員、生徒との接し方(「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識)	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。	4時間
第3回	①実習日誌の記録(書くことの意義、記入項目と記入方法、活用) ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題(教育実習における達成課題を設定する)	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうして各自の弱点をおさながら振り返る。	4時間

第4回	①ホームルーム指導の実務(特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標) ②「クラスづくり」の実践例(読み合わせと分析)	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する小学校での実践記録から保護者との連携の意味について考察する。	4時間
第5回	①ホームルーム指導の実務(学校行事の目的と意義、進め方、) ②学年担任団の役割(学年集団の指導と連携) ③保護者との連携(信頼と協力) ④課題(次回の学習指導案の目標、ねらいの設定)	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる一朝鮮戦争と冷戦」をもとに、授業プランを構想する。	4時間
第6回	①学習指導案の作成(中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成)	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。	4時間
第7回	①資料(文字・図・映像)の作成と使い方(PCを使用した教材の作成とプロジェクターによる活用)	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。	4時間
第8回	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	教育実習を総括し、文章にまとめる。	4時間
第9回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	秋学期の「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実習 I			開講年度	2021年度春学期			
担当者	平阪 美穂			配当年次	4			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	実習			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験の中から学ぶ							
授業の目的及び概要	高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者 							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。 ③教育実習を通じて、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年、ISBN：978-4827815795 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年、ISBN：978-4827815672							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、そのつど出席すること ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実 に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしがた、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4時間
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間

第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4時間
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4時間
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4時間
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間

科目名	教育実習Ⅱ			開講年度	2021年度春学期			
担当者	平阪 美穂			配当年次	4			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	実習			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験から学ぶ							
授業の目的及び概要	<p>中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。</p> <p>教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。</p>							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者 							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。 ③教育実習を通じて、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	特に指定しない。							
参考書	<p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成29年、ISBN：978-4827815795</p> <p>高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)、文部科学省、東山書房、平成30年、ISBN：978-4827815672</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、そのつど出席すること。 ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実にも即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしがたいい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4時間
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。 復習:参観した授業とクラスについて復習する。	4時間

第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。 復習:授業に備えて教材研究を行う。	4時間
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4時間
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4時間
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4時間
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4時間
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間

科目名	教職実践演習	開講年度	2021年度秋学期					
担当者	鈴木 清稔、武田 章	配当年次	4					
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください http://www.keiho-u.ac.jp/faculty/numbering.html	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	演習					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。							
授業の目的及び概要	この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことである。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したこと振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。 その際、講義や演習(報告、発表、討論)、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ教育現場を意識した課題を取り扱う。 前半部分(第1回～第8回)では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など<自己の経験>と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。 後半部分(第9回～第14回)においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。							
履修の条件・注意	教職課程の各授業科目の単位取得、さらに教育実践指導論および教育実習を終えた者が、教職課程の学修の総仕上げとして履修する。							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる、最低限の資質が形成されたことを確認する。 そうした資質形成の確認を、以下の3点を目安として行う。 ①教師としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師としての社会性、対人関係の能力 ③教科の指導力や生徒理解の力など							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、演習期間中にコメントや論評を行う。演習後半部分のものについては、演習の中で行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	テキストは指定しません。							
参考書	『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 東山書房(2020)ISBN-10: 4827815798 ISBN-13: 978-4827815795 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 東山書房(2018)ISBN-10: 4827815674 ISBN-13: 978-4827815672 『中学校学習指導要領(平成29年告示)社会編』文部科学省 東洋館出版社(2018)ISBN-10: 4491034710 ISBN-13: 978-4491034713 『高等学校学習指導要領解説(平成30年告示)地理歴史編』文部科学省 東洋館出版社(2019)ISBN-10: 4491036411 ISBN-13: 978-4491036410 『高等学校学習指導要領解説(平成30年告示)公民編』文部科学省 東京書籍(2019)ISBN-10: 4487286336 ISBN-13: 978-4487286331							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるといつてよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。この科目の単位取得なしでは、教員免許取得申請は出来ません。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見(鈴木) 「ふり振り返り」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前:「事前レポート」の作成 事後:『事前レポート』の加筆、修正	4時間
第2回	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論(鈴木) 本演習における今後の自己目標の設定	事後:「事前レポート」の完成	4時間
第3回	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。(鈴木)	事後:演習内容をふまえて、「レポート」の作成	4時間
第4回	「私の考える「教師の仕事」としてレポート作成(鈴木) (第5回目までに完成させ、持参する)	事後:「レポート」の完成	4時間
第5回	前回に作成したレポートに基づく報告と討論(鈴木)	事後:演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り	4時間

第6回	ゲスト・スピーカーによる講演(鈴木) 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前: 学校の保護者対応に関する下調べ 事後: 配付プリントの学習	4時間
第7回	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)(鈴木)	事後: 演習内容の整理と振りかえり	4時間
第8回	ゲスト・スピーカーによる講演(鈴木) 学校現場における今日的課題に関する講演と質疑	事前: 学校教育における今日的課題に関する下調べ 事後: 配付プリントの学習	4時間
第9回	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト(武田)	事前: 「確認テスト」の準備学習 事後: 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第10回	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト(武田)	事前: 「確認テスト」の準備学習 事後: 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第11回	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第12回	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第13回	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)(武田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後: 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第14回	全3回を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り(武田)	事後: 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認	4時間
第15回	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの課題の確認(鈴木)	事後: 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成	4時間